



手話通訳者派遣事業の今後
飼い主のいない猫の苦情対策

丸山 ますやま
(公明党)

質問 手話通訳者の高齢化は今後の派遣事業に大きく影響する。人材養成の強化などの検討が必要と思われるが、本市の見解は。

答弁 本市の登録手話通訳者は51人、平均年齢53歳で高齢化の傾向にある。資格取得まで最短でも5年以上かかるため、すぐに手話通訳者を増やすことができない。本市では、本年度から手話奉仕員養成研修事業を拡充し、新たに初心者向けの短期講座も実施している。今後も手話通訳者確保のため

の対策を研究していく。

質問 飼い主のいない猫、いわゆる野良猫対策に対する本市の考えは。

答弁 現在、猫の不妊・去勢手術費補助制度を実施し、野良猫を含めた猫の繁殖を抑え、新たな野良猫の発生を防いでいる。これによりふん尿被害や猫のけんかによる騒音などの問題解決につながるかと考える。今後、町内会への聞き取りや県、他自治体の活動状況を調査し、対策を研究していく。



車椅子利用者の外出をサポート
がん患者の社会生活支援

小野 聡子
(公明党)

質問 車椅子利用者の目線に立ったバリアフリー情報を掲載したマップ作成の考えは。

答弁 本市では、以前に車椅子対応のトイレマップを作成したが、その後バリアフリー等に関する情報発信は行っていない状況である。バリアフリー情報等を掲載したマップを作成している

自治体もあるので、本市でも今後マップの作成に向けて関係部署と連携し研究を進めたい。

質問 がん患者の治療による外見変化への支援制度の概要と相談や交流ができるケアセンター設置の考えは。

答弁 1人1回3万円を上限とするウィッグや胸部補整具の購入助成事業を来年



ビブリオバトルで好きな本の紹介を

度に開始する予定である。また、市内2カ所のがん相談支援センターでは、がん医療の情報提供や相談支援を行っている。

読書

白石 隆夫
(新風会)

質問 学校図書館を活用したビブリオバトルのような読書活動にはどのようなものがあるか。

答弁 司書教諭や学校図書館指導員の協力により、本の面白さを伝え合うブックトークや本の内容に関するクイズなど読書に興味を持たせる学習活動が増えている。各校では年間授業計画の中に学校図書館の活用を位置付け、資料を読み解く

今後がん相談支援センターや民間団体による地域がんサロンの周知、PRなど情報提供に努めていきたい。



活動

本市観光振興施策
長壁 真樹
(新風会)

質問 本市のフリーWiFi設置状況は。また、榛名神社や榛名湖周辺へ設置する考えは。

答弁 JR高崎駅周辺、高崎アリーナ、子育てなんでもセンター、くらぶち英語村でフリーWiFiを設置している。また、榛名神社や榛名湖周辺での整備については、現在、通信事業者等から費用を含めた情報を収集しており、今後、具体的な可否を検討していく。

係に対する考えは。

答弁 スマホに依存すると短文でのコミュニケーションが可能となるため、長文を読むことが難しくなるという指摘がある。読書は想像力を膨らませ、心を豊かにする一面もあるので、読書の時間が減少しないよう各校ではスマホ使用に関する情報を提供し、子ども自身が使用について考えられるようにしている。



質問 榛名湖周辺の観光振興の現状と管理状況は。

答弁 11カ所ある公衆トイレのうち、7カ所が県管理、4カ所が市管理である。いずれも榛名観光協会榛名湖支部に清掃管理を依頼している。榛名湖前のトイレなど一部は洋式化されているが、残りは和式である。近年、榛名湖を訪れる外国人観光客も増加傾向にあり、観光地のトイレ洋式化は重要と認識している。今後も公衆トイレの良好な管理に努め、観光地のイメージアップを図ってきたい。



文化財の保存と活用
感染症予防

新保 克佳
(公明党)

質問 VRやARを使用し、文化財を活用する考えは。

答弁 VRは、CGなど仮想の光景を映し出す技術で、文化財の活用には現実の風景に仮想を組み合わせるARの方が適していると考ええる。今後、市内の史跡で導入できるか研究を進めたい。

概要とフォロアップ事業前の陽性者への対応は。

質問 高齢者用肺炎球菌ワクチンの経過期間が本年度で終了するが延長の考えは。

答弁 経過措置の継続など、国や他の自治体の動向を注視しながら研究したい。

質問 ウイルス性肝炎の早期発見、治療につなげるため、平成14年度から検診を開始した。27年度からのフォロアップ事業では陽性者に対し、年1回の受診状況や治療内容の確認、県の肝炎に関する市民公開講座への参加も案内している。なお、26年度以前の陽性者には、継続した治療を受けているかなど受診状況を確認し、受診勧奨に努めたい。



上野三碑の今後の取り組みと目標
介護業界の人手不足

清水 明夫
(新風会)

質問 上野三碑に関わる民間団体の取り組みにより三碑の認知度が向上したが、今後、市民の力の活用は。

また、山名古墳群なども市民が憩いの場所として活用できるのでは。

答弁 各団体の特長を生かした普及活動と引き続き連携して三碑の保護と活用を進めたい。また、山名古墳

群は、駐車場整備と看板の設置をしているが、地元から利用したいという要望があれば検討していきたい。

質問 介護業界の人手不足の状況と市内事業者の外国人就労状況は。

答弁 全国的に高齢化が進む中、厚生労働省では群馬県の介護人材必要数を2025年度に3万9774人



教職員の多忙化解消
ごみ減量化の取り組み

林 恒徳
(市民クラブ)

質問 部活動の指導など教職員の多忙化を解消する取り組みは。

答弁 部活動は、教育活動の一環として学校長の責任の下、適切に運営していくものである。行き過ぎた指導や弊害が生じないよう学校と連携し、各学校は来年度に向けて、週2日休める取り組みを進めている。さらに部活動指導員を3人配置し、教職員の心理的な負

と推計しており、約5千人が不足すると公表している。本市では59人の外国人が介護職員として就労している状況であり、真面目で明る

いという意見がある一方、職員や利用者との意思疎通に支障があるなどの課題も挙げられている。



質問 井野町第3町内会での生ごみの乾燥による減量化の取り組みに対する本市

の見解は。

答弁 井野町第3町内会のように、市民がそれぞれごみ減量化に取り組むことは望ましいと感じているが、各家庭でこの町内会と同じ取り組みをするには、生ごみを乾燥させる道具の用意や乾燥場所の確保などの条件があるため、すぐには難しいと考える。今後も水切りの徹底などごみ減量化対策の研究を続けていく。



障害者支援施策
子どもを取り巻くSNSの現状

中島 輝男
(市民クラブ)

質問 地域生活支援拠点の整備状況と就労定着支援事業の取り組み方針は。

答弁 地域生活支援拠点については、障害者支援SOSセンターや基幹相談支援センターの開設をはじめ、相談支援事業所との連携体制の整備など既存の社会資源を効果的、効率的に活用した面的整備を進めている。また、就労定着支援事業は、障害者が一般就労を果たす上で、長く就労するために必要な支援を行う事業所の指定を推進するものであり、

(P8参照)

今後とも指導していきたい。

質問 子どもたちがネット犯罪等に巻き込まれるケースが増える中、市の対応は。

答弁 中学生リーダー研修会において、SNS使用の提言をまとめ、各学校ではSNS対応方針及び行動計画を作成し、教員が直ちに介入して解決を図れるようにした。また、使用に関するネット接続事業者やフィルタリングの徹底を依頼した。さらに、SNS関連の相談窓口を設置し機能強化している。



ごみ減量化に水切りの徹底を